



訪日研修、その後

～ホストファミリーとの交流続く～

IFA はスウェーデン王国、ストックホルムにあるトンバ高校の訪日研修を 2009 年より実施・運営している。本年度は 3 月から 4 月にかけての 2 週間、高校 2 年生 6 名が来日し、ホームステイをしながら日本の高校に体験入学をし、日本語のスキルアップを目指した。ホストファミリーから届いた便りを紹介する。

◇

4 月はトンバ高校からのシックスステン君のホームステイでお世話になり、ありがとうございました。得難い貴重な経験ができました。その後、6 月末にシックスステン君、ご両親、弟さんが夏休みで来日され、お母様がお礼を言いたいからと、夕食でお会いすることになり、我家も一緒にすしざんまいで夕飯をいただき楽しく過ごしました。

また思いがけず、スウェーデンに帰国する日に、シックスステン君がとても

気に入っていた代々木上原のムレスナティーに今から行くと知らせてきて、一緒に行きました。ムレスナティーは、ティーフリーを注文すると、色々な紅茶を少しずつ注いでくれます。スウェーデンでは紅茶が高く、紅茶屋さんは珍しいらしく、滞在中、シックスステン君がとても気に入ったお店で、家族を連れて来たかったそうです。



いろんな種類の紅茶をたくさん飲み、帰り道に我が家をチラッと覗いて、お母様が「シックスステンが気に入ったのがわかったわ」と言ってくれて、嬉しかったです。時間があまりなくて、急いで成田空港に向かわれました。日本に対する興味や親しみを持つきっかけになり、今後も良い交流が続けばと思います。

シックスステン君によると、スウェーデンには塾も家庭教師もなく、夏の宿題もなく、今夏、日本のあとは、友達とチェコ、ポーランド、ドイツに旅行にいくそうです。お父様も 3 週間夏休みらしく、日本と幸福度が違うなと思いました。いつか、スウェーデンに行きたいと思います。

●ホームステイ後の感想

とても真面目で礼儀正しく知的な好青年で、楽しく過ごせました。息子 2 人と交流することで、お互いに、異文化交流・多様性を知り理解する機会になりました。シックスステン君からは、ご両親が編んだ手袋の写真を送ってもらったり、スウェーデンの料理の話を聞いたりしました。

ホームステイ中は色々なところに連れて行きましたが、それで良かったのか、もっと家でゆっくりしたかったのか、コミュニケーションや言葉の問題もあり悩みました。1 週間、あっという間に過ぎてしまいました。最終土曜日は、学校でせわしくなく、ゆっくり過ごせる土日がもう 1 回あればと思いました。

子どもが習う書道教室で「春」と書いたことや、代々木公園でのイースターエッグハント体験は、日本人と交流できて楽しかったそうです。短い期間でしたが、とても楽しい日々と一緒に過ごせました。

●シックスステンの感想

ホストファミリーはとても親切で、食事とても美味しかったです。私は訪日研修の経験を通して得た新しいことを、今後の日本語学習にも活かして、また日本にも来たいです。

(抜粋、和訳：編集)

世界万華鏡

“第 39 回夏期ジュニア大使友情使節団ブルネイ班”

団員が見たブルネイ

●7月26日(日)

今日はブルネイに到着しました。パンダル・スリ・ブガワンの空港に着くと、ガイドのハスナルさんが出迎えてくださり、車でローカルマーケットに向かいました。たくさんのフルーツや野菜が安い値段で売られていて驚きました。日本では食べられないような果物や揚げ物をマーケットでは試すことができてとても素敵な経験になりました。明日からはホームステイをします。その中でもっと深く、ブルネイの文化や人々に触れ実りの多い時間を過ごしたいと思います。

●7月27日(月)

小6から高1の学校で、社会科とドラマの授業を受けました。ドラマは日本にはない教科なので新しい体験ができました。3つのチームに分かれて、それぞれの劇を見せてもらいました。急ぎょ、3つのうちの1つに出ることになり、グループの子たちを見てまねしてやりました。チームの子たちが私に「次はこういう動きをやるよ」とか「次はこれをもって」と教えてくれたのですごくやりやすかったです。1日目だったので緊張していたのですが、ブルネイの人がすごく優しくてたくさん交流しました。

●7月28日(火)

午前中に現地の学校を訪れ、パディの子と一緒に授業を受けました。学校では授業の初めと終わりにイスラム教のお祈りがあり、私達も見よう見真似で一緒にお祈りをしました。イスラム教の信念が深く根付いている一方で、1時間目の物理の授業では、私達が普段、日本で受けている授業との共通点が多く見られました。お昼には、日本文化紹介の後、ブルネイの伝統芸能を体験することができました。伝統音楽にはその音楽特有の雰囲気や軽快さがあり、ブルネイという国の文化を好きになるきっかけになりました。

●7月29日(水)

朝のニューモスクの見学では、たくさんの精巧で美しい装飾が施された室内を見て、国民の王への気持ちが伝わってきました。また、礼拝室内には見学した際にもお祈りをしている方がいて、国民へイスラム教が強く、深く根付いていることが分かりました。

日本国大使館では、菊田大使にお会いすることができました。私の心に一番強く残っているのは、違う文化へも壁をつくらず、自分の慣れていないことも排除せずにいれば、文化を越えて分かり合うことができるということ

です。ブルネイについてから、たくさんの生活における「普通」が日本とは全く異なっていて、壁を作っていました。しかし、自分たちが受け入れてもらっているように、私達日本人も、異文化へ寛容になることが大切なのだと強く感じました。

●7月30日(木)

午前中に、モーターボートに乗ってブルネイ川を散策しました。スピードが速かったので、とても風が強く感じられました。運よく私達は近くでテンゲザルを見ることができました。モーターボートからは生い茂った木や遠くのモスクが見え、ブルネイならではの景色を堪能することができたと思います。水上都市では、ボートで通学する学生たちや警察署、消防署、学校等の公共機関も水上に建てられていて、とても驚きました。ブルネイが水上都市から現在の家に発展した歴史や今でもこのような建物が残っていることにも感動しました。

(参加者の日誌より抜粋、校正：編集)

令和 8 年 8 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川 伊佐子
編集 集：事務局 03(3582)3021
印刷 刷：ダイト印刷株式会社